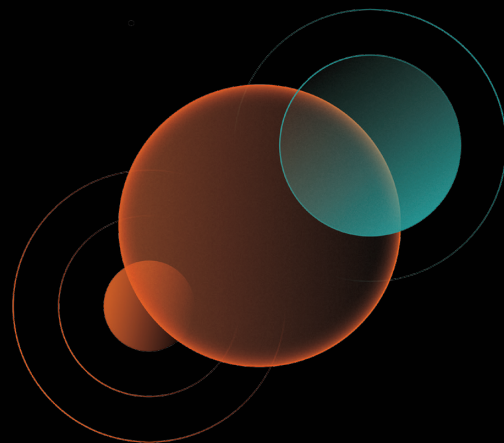


日本医療検査科学会第58回大会 ランチョンセミナー10



www.siemens-healthineers.com/jp

日 時：2026年 **10**月 **9**日(金) 12:00～12:50

会 場：第4会場(神戸国際会議場 4階 401 + 402)

座 長：山口 絢子 先生

産業医科大学病院 臨床検査・輸血部 部長

演題1：少人数で支える検査体制の構築

～人の動きを起点としたワークフロー再設計による運用効率化～

演 者：辻村 和樹 先生

公立芽室病院 診療技術科 科長補佐

演題2：新検体搬送システム「FlexLab X」導入による
検体検査業務の効率化

演 者：吉本 尚子 先生

公立西知多総合病院 臨床検査科 科長

本ランチョンセミナーは整理券制となっております。

9月1日(火)10時から9月15日(火)17時までの間に学会ホームページから事前参加登録をすると、登録時にランチョンセミナーの整理券事前予約がおこなえます。

事前申し込み後の残数につきましては、セミナー当日の朝に配布されます。

詳細は日本医療検査科学会第58回大会のホームページをご確認ください。

※整理券の予約・配布はいずれも無くなり次第、終了とさせていただきます。

共催：日本医療検査科学会第58回大会

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社



一般社団法人

日本医療検査科学会

The Japan Association for Clinical Laboratory Science

SIEMENS
Healthineers

演題1：少人数で支える検査体制の構築

～人の動きを起点としたワークフロー再設計による運用効率化～

演 者：辻村 和樹 先生

公立芽室病院 診療技術科 科長補佐

当院は、北海道西十勝医療圏に位置し、急性期から在宅医療までを担う地域医療の中核的役割を果たす公的病院である。近年、地方の中小規模病院では人材不足や働き方改革への対応が課題となっており、当院においても限られた体制の中で、効率的かつ持続可能な検査体制の構築が求められていた。

このような背景のもと、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社製の生化学・免疫統合分析装置Atellica CI1900を導入し、生化学および免疫検査装置の集約化を行った。測定状態に影響されることなく作業可能な本装置の特性を活かし、人の動きを起点としたワークフローを構築した。

その結果、業務動線の整理と効率的な運用が可能となり、さらにメンテナンス自動化による業務負担の軽減を図るとともに、オンコール時の迅速な検査対応も実現した。本講演では、人の動きを起点としたワークフロー再設計を通じて得られた検査体制構築のプロセスとその導入効果について紹介する。

演題2：新検体搬送システム「FlexLab X」導入による 検体検査業務の効率化

演 者：吉本 尚子 先生

公立西知多総合病院 臨床検査科 科長

タスクシフト/シェアの時流により、臨床検査分野においては技師の業務量が増加傾向にある。一方で病院の経営環境と若手人材の確保は年々厳しさを増しており、効率的な検査体制の構築は喫緊の課題である。

当院において、近隣する3つの病院が統合してから10年という大転換期を乗り越えるには、検体搬送処理システム導入が必須であった。本システム導入を契機に検体部門を統合し、これまで独立していた生化学・免疫・血球計数・凝固・HbA1c 各検査業務を整流化・効率化を実施した。その結果として創出された人員を生理検査/採血など人でなければならない業務へシフトすることで、検査枠の確保・患者さんの待ち時間削減が可能になり、当院の理念である「患者さんのために」の体現に資するとともに、精度管理業務工数削減による職員の時間外勤務削減も実現することができた。本講演では、新搬送システム導入における具体的手法と運用上の工夫および効果について報告する。

展示ブースのご案内

学会期間中、神戸国際展示場3号館（小間番号D-6）にて展示を行っております。

製品を実際に見て、触れていただきながら、臨床現場の運用改善や業務効率化を支援するソリューションをぜひご体感ください。

3号館

